

市のリサーチ&ビジネスパーク構想

農業核に新産業創出

関係機関の連携強化課題

帯広市は今年産業革新「より前進させる方策」として、帯広版リサーチ&ビジネスパーク（R&B）構想を、企業・大学・関係機関が連携を深める「R&Bイオ」環境を地場産業を生かした分野の新産業創出を成り果すこととする。従来の産学官連携

R&B推進は山敏文市長の3期目公約。帯広では文科省の「都市エリ」ア産学官連携促進事業」指定を受け、十勝圏振興機構などが手掛ける、農

産物関連のシーズ（研究成果）や産学タレントの実績が蓄積される。構想策定に向けては、主に「産」が「学」にシ

従来の連携にとどまらず、「学」が産にシーズを生み出して事業化を促す道筋を想定。昨年秋には市も含めた関係者20人ほどで構想策定の検討会を踏切。これまでも向の会合を重ね、農業を核とした関連産業の推進を話し合った。

新産業創出には「産」「学」が日常的に交わる組織・場所、研究活動を促す仕組みなどをどう整えるかが課題で、これらがどう具体的に盛り込まれるか注視される。市政策推進部は「検討会をさらに1、2回開いて意見を集約し、庁内合意を経て構想を固める」としている。

（帯広市報）